

天下第一の桜

たかとおこひがんざくら

高遠小彼岸桜

加藤良一

令和4年4月20日



長野県伊那市の高遠城址公園に咲く約1500本の「タカトオコヒガンザクラ」は、県の天然記念物指定を受け、平成2年には、日本さくらの会の「さくら名所百選」に選ばれています。見頃は4月上旬～中旬、満開時には公園全体が薄紅色に染まり、多くの観光客が訪れます。このサクラは、固有種で、ソメイヨシノよりやや小ぶりで赤みの強い花を咲かせます。みごとな咲きぶりと規模の大ききで「天下第一の桜」と称され、樹林は県の天然記念物の指定を受けています。

春の季語にある「桜時」にはすこし遅かったですが、4月15日小雨模様のなか訪れたときには、薄紅色の絨毯が敷き詰められていて、春の風物詩としてじゅうぶん楽しめるものでした。

春先の雨に打たれる桜の風情を「桜雨」と呼ぶようですが、これは桜の花を濡らして降る雨の風情を表したことばです。



春雨の花の枝より流れこぼなほこそぬれめ香もやうちうると

これは、春雨が桜の枝から流れ落ちてきたらもっと濡れよう、花の香も身にうつるだろう、と散りゆく桜をいつくしむ思いを歌っています。

高遠城

高遠城は、武田信玄の五男仁科五郎盛信が織田信長の長男信忠と戦い、壮絶な死を遂げた城です。明治4年(1871)の廃藩置県により取り壊されましたが、明治8年(1875)荒れたままの高遠城址を、旧藩士達が馬場の桜を城址に移植したのが公園の桜の始まりとされています。

本丸の老木はこの時植えられたもので、毎年4月には、約1,500本の「タカトオコヒガンザクラ」が、淡紅色で小ぶりの花を咲かせます。公園内には、国の登録有形文化財の指定を受けた高遠閣や城下から移築された問屋門、太鼓櫓、新城藤原神社のほか、高遠公園碑、無字の碑、靖国招魂碑などの碑文等、歴史的資料がたくさんあります。



たかとおこひがんざくら

高遠小彼岸桜

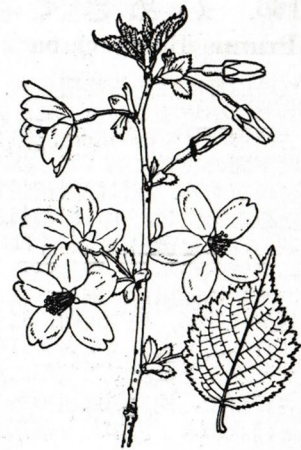
「タカトウコヒガンザクラ」は、「マメザクラ」(豆桜)または「キンキマメザクラ」(近畿豆桜)と、「エドヒガンザクラ」(江戸彼岸桜)の交配種とされています。高遠に固有の種類として命名された桜です。「キンキマメザクラ」は「マメザクラ」の変種です。

1162. まめざくら (ふじざくら)

〔ばら科〕

Prunus incisa Thunb.

本州中部の山地、特に富士山、箱根山に多くはえる落葉の小形高木あるいは高木。高さ3~5m、葉は短柄をもち互生、小形で長さ3cm内外、卵状広楕円形あるいはひし形状の倒卵形または倒卵状広楕円形、鋭尖頭、基部はやや心臟形、ふちには規則正しい切れ込み状の重きよ歯がある。両面には短毛がまばらにつき、葉質はややすすい。4~6月頃葉がのびる前に散房花序を作って1~3個の花を開き、花軸は殆んどなく、葉柄には斜上毛または伏毛があり、基部に芽鱗がある。葉の基部に蜜腺がある。花は径1.5cm内外。がくは紅色をおび筒状。花卉は広楕円形、淡紅色でわずかに凹頭。雄しべは多数、雌しべは1本、核果は小形の球形で6月頃紫黒色に熟する。まれに花卉が白色、がくは緑色で少しも赤い色素のないものがあり、リョクガクザクラ(緑がく桜)(var. *Yamadei* Mak.)という。〔日本名〕豆桜は小形のサクラの意味。フジザクラは富士山に多いからである。関東西部には葉がやや大形で、がく片の幅が広く、明らかなきよ歯のあるものがあり、ヤブザクラ(var. *tomentosa* Koidz.)という。



牧野新日本植物図鑑より



1147. うばひがん (えどひがん / あずまひがん)

〔ばら科〕

Prunus itosakura Sieb. var. *ascendens* Makino

しばしば山林中にはえる落葉高木で高さ15mぐらいになる。径は60cmぐらい。時には観賞植物として栽植されることがある。小枝は細長く表面はなめらか。葉は長楕円形。先端は細長くとり、基部は鋭形、ふちには鋭くとがったきよ歯があり、長さ5~9cm。若葉にも成葉にも軟毛がある。3月末に葉より早くまた他種に先がけて淡紅色の花を開き、散形状に数個の花が集る、花柄は長く、がくや花柱とともに毛でおおわれる。がくは筒状であるが、下部がややふくらみ、上端で5裂する。花卉は5。凹頭で水平に開出する。雄しべは多数。雌しべは1本。夏に小豆粒ぐらいの実がなり、紫黒色に熟する。〔日本名〕姥彼岸ウバヒガンザクラの略。姥(老婆)は普通歯が抜けてしまって無いものが多いが、本種も3月末に葉の無いうちに花を開くので歯無しと葉無しをかけて、ウバの名をつけた。江戸彼岸、東彼岸は、東国(関東)のヒガンザクラという意味。これをヒガンザクラというのは誤りである。ソメイヨシノからは樹皮がたてに割れ、花は小型、葉は細くて長楕円形で毛が多く、重きよ歯縁にならないし、がく筒の基部が丸く急にふくらんでいるなどの点で区別できる。



酒なくて何の己が桜かな

この句は、花見の風流も、うまい酒と肴がなければ十分ではない、酒を飲みながら楽しむものでなければ花見もつまらないものだ、というような酒飲みのうたですが、酒がないものと割り切って桜を眺めてみればそれはそれで楽しめるものです。

[Back](#)

[虫めがねTopへ](#)

[Home](#)

[Home Pageへ](#)